

## ～旧約聖書を読んで感じること～ (37) 士師記(4)「ギデオンの息子たち」

ギデオンは自分の町オフラに住み、多くの妻と、70人の息子がいました。その上、遠い町シケムに側女がいました。側女には**アビメレク**という一人の息子がおりました。彼は側女の子であり、王のように生活していたギデオンの息子たちに、差別を受け、嫉妬、羨望など抱くのは当然かもしれません。アビメレクはギデオンの死後、シケムに住む母方のおじたち、一族全員に言いました。



図像 Guillaume Rouillé

「シケムのすべての首長にこう言い聞かせてください。あなたたちにとって、エルバアル(ギデオン)の息子七十人全部に治められるのと、一人の息子に治められるのと、どちらが得か。ただしわたしが、あなたたちの骨であり肉だということを心に留めよ。」(士 9:2)

これを聞いた母方のおじたちは、「これは我々の身内だ」と思い、その心はアビメレクに傾き、シケムのすべての首長に告げました。彼らはアビメレクを支

援しました。アビメレクは命知らずのならず者を数名雇い入れ、父の家に行って、異母兄弟の70人を皆殺しにしていきました。跡目を狙ったにしても、あまりに残酷な虐殺でした。アビメレクはシケムに戻り、首長たちが集まり、アビメレクを王としました。



この殺害の時、辛うじてギデオンの末息子の**ヨタム**が身を隠して生き延びることが出来ました。アビメレクが王になった事を知ったヨタムはシケムのゲリジム山で抗議の声をあげました。

オリーブは神と人に誉を与える油を捨ててまでして、頼まれても、木々の王になるだろうか、いちじくは甘くて味の良い実を捨ててまでして、頼まれても、木々の女王になるだろうか、ぶどうは神と人を喜ばせるぶどう酒を捨ててまでして、頼まれても、木々の女王になるだろうか、茨は冠を戴くかもしれないが、正当な依頼でないなら、茨は木々を焼き尽くすものとなる

ヨタムは「**神に従う人の結ぶ実は命の木となる**」(箴 11:30)の言葉のように「木は実を以て知られる」ことを訴えました。父の死後、父の大きな働きに報い、その一族を正当に遇すべきであるのに、その息子たちを虐殺した女奴隷の子アビメレクを王にしたのか！と糾弾し、この行動は必ず報復されると叫び、逃げ去りました。また、「茨の冠」とは象徴的な言葉となり、今も使われています。

シケムの首長たちは心に責めを感じ、アビメレクに仕える必然性も感じず、だんだん関係が悪化してきました。さらにアビメレクを追放、殺害したいという思いに変わっていききました。アビメレクはその計画を察し、逆にシケムを攻撃し始め、首長たちを追い狙い、焼き殺してしまいました。彼の攻撃性は、誰かれなく向けられ、同族にも向けられるほど凶暴なものになりました。



James Tissot

テベツという町も制圧しました。その時住民は、男も女も皆、町の首長たちと共に、町の中の堅固な塔に逃げ込んで立てこもり、塔の屋上に登って防戦しました。

アビメレクはその塔のところまで来て、これを攻撃した。塔の入り口に近づき、火を放とうとしたとき、一人の女がアビメレクの頭を目掛けて、挽き臼の上石を放ち、頭蓋骨を砕いた。(士 9:52-53)

名も記されていない女性が投げた石によって、アビメレクは倒れました。彼は「女に殺されたと言われたくない、私にとどめを刺せ」と言って、従者の剣によって死にました。アビメレクの野望による暴虐は終わりました。死ぬか生きるかの壮絶な時代とはいえ、士師ギデオンの息子たちのうちで、末子ヨタムが「残りの者」(創 45:7)となり希望が残りました。